

ラビ・リスキンに反論する

2010年9月12日 アシェル・イントレーター

ラビ・シュロモ・リスキンは最近、メシアニック・ユダイズムを批判する記事を書きました(エルサレム・ポスト 8-27-2010)。以下、アシェルの反論の一部を掲載します。

ラビ・リスキンはキリスト教界およびユダヤ教界双方から尊敬されています。彼は行動力があり、知的で霊的です。多くの事柄について私たちは意見を完全に一致していますが、いくつかの事柄について私たちは同意しないでしょう。リスキン師は、私たちの共同体は迫害されてきたなどと信じないと言いました。しかしどうか以下を熟考下さい。例えば:

1. アミエル・オリッツは殺されかけましたが、奇跡的に生存しました。
2. アシュドトにあるコンフォルティ夫人のパン屋は意図的に破壊されました。彼女はそこで朝早くから夕暮れまで何年も働き続けてきました。
3. ベエル・シェバのメシアニック・コングリゲーションは暴徒によって荒らされました。
4. アラドにある小規模なメシアニック・コングリゲーションは何度も物理的攻撃を受けました。
5. 何十人もの新しいメシアニック・ユダヤの帰還者は、市民権を却下されました。
6. 大勢のメシアニック・ユダヤ人は殴られ、攻撃され、誘拐され、つばを吐きかけられ、そして家族から絶縁されました。

これらの攻撃は超正統派の中でも過激派によって行われたものです(私たちは彼らがユダヤ教徒の主流派を代表しているとは思いません)。これらの攻撃が行われた唯一の理由は、被害者がメシアニック・ユダヤだったからです。

私たちはまた「改宗」させるということで非難されています。しかし、私たちが広めている私たちの信条は表現と信仰の自由という基本的権利です。実際に、多くの超正統派の宣教者らがやっているように、私たちは自分の信仰を広げていません。彼らは路上で車を寄せてきたり、ショッピングセンターでティフィリン(訳注: 聖書の御言葉の切片が入った小さな黒い箱で、祈りの時額の真ん中および左腕の内側に結わえ付けるもの。男性のみ使用。)を買い物客に付けさせ祈らせたり(訳注: 祈りは申命記 6:4-9 を詠唱する)、街中に宣教カーを走らせて拡声器で彼らの「改宗」の成果をがなり立てるのです。

ラビ・リスキンは私たちが「欺まん的である」と非難します。しかし、私たちは聞いて来る者全員に対してはっきりと私たちの信条を語っています。数ヶ月以上私たちの集会に参加した者は誰でも私たちが何者であるか理解します。割礼、安息日、例祭、バー・ミツヴァやフッパー(訳注: ユダヤ的な結婚式に使う天蓋)など、ユダヤ的な伝統行事は私たちの信仰の一部です。私たちはキリスト教界およびラビ的ユダヤ教界双方から批判されようとも、これらの価値観に私たちは立っています。

最後に、私たちのメシア観はユダヤ教の枠内から外れていると言われています。では、ハバッド運動はどのようなのでしょうか。彼らのレベ(ラビ)がメシアだと宣言しています。では、テル・アビブの「メシア」はどのようなのでしょうか。ナフマンという名が世界の贖いをもたらすと宣言している人々はどのようなのでしょうか。イスラエルの大学にいる無神論者の教授達はどのようなのでしょうか。改革派ユダヤ教徒と新カバラーはどのようなのでしょうか。これら上記は正統派ユダヤ教徒「主流派」とはすべて異なるものです。

大贖罪日

この金曜日、宗教的なユダヤ教徒やメシアニックジューは共に聖書的な大贖罪日をお祝いします。アハヴァット・イエシュアでは他の地元のCongregationと一緒に一日断食、悔い改め、祈り、教えそして交わりを行います。

私たちはイエシュアの流された血に贖いを見出します。正統派ユダヤ教徒は頭上で鶏又は献金を振って、贖いを求めます。その時ラビは儀式の中で「置換、交換、贖い」と宣言します。

大贖罪日の前の朝、正統派ユダヤ教徒は浄めのために水に浸す(「ミクヴェ」)ことをひんぱんに行います。その時ラビは、浸礼は「新しい誕生」または「新しい創造」のようなものであると教えます。人が浸礼される時、水の中で息を止め、それは一種の死であり、水から起きあがると、それは一種の「復活」です。

9.11

アメリカにおいて、メディアの大半は「イスラム恐怖症」の危険性を非難します。しかし、「イスラム恐怖症」ではなく、「イスラム聖戦主義」が貿易センタービルの3千人の人々を殺したのです。オバマ大統領は、アメリカはイスラムに対して戦争をしないとしました。しかし、イスラム聖戦主義者らはすでにアメリカと戦争していると公然と宣言しています。

オバマ大統領はまた、貿易センタービルを攻撃したのはイスラムではなく「アルカイダ」であると述べました。しかし、「アルカイダ」のメンバーは当然、自分たちはイスラム教徒と考えています。もし「アルカイダ」がイスラムでないならば、ではヒズボラ、ハマス、ワハビ、人民戦線、イスラム兄弟団、タリバン、アル・アクサ殉教者旅団はどのようなのでしょうか。彼らは皆アメリカとイスラエルの滅亡を望んでいます。彼らはイスラム教徒でないのでしょうか。

以下は、エルサレムにおいて行われた 9.11 犠牲者のためのイスラエル人による記念式典です。

<http://www.youtube.com/watch?v=CRPYTiN5Oso>

ガヴリエラ シャレヴ ソロモン・イントレーター

最近、マアリブ誌は退官したイスラエル人国連大使であったガヴリエラ・シャレヴ教授をインタビューしました。シャレヴ氏は世界的な法律家であり学者です。彼女は、夫がヨム・キプール戦争において、スエズ運河で 33 人の捕らわれた兵士たちを救うために活動し殺害された後、二人の息子を育て上げました。

シャレヴ氏は「鑄造した鉛(キャスト・リード)作戦」、ゴールドストーン報告書、そしてガザ船団などの事例でイスラエルを擁護するため奔走しました。(彼女は冗談めかして、マンハッタンでの豊かな文化生活と国連でイスラエルを代表する難しさのことを、天国と地獄だと比較しました。)

シャレヴ氏はあるプライベートな夕食会で敵対するアラブの国からの大使と何時間も話したことを語りました。それに続く公的な総会において、その大使は意図的に彼女の存在を無視しました。「私は、国連には真実があり、そして仮想の真実があることをすぐに理解しました。」キャストリード作戦の時、大勢の代表らは公にイスラエルを中傷しましたが、その後個人的に彼女の元にやってきて、「その仕事を終わらせる」ためと、ハマスを完全に破壊するようイスラエルを励ました。

シャレヴ氏は、ゴールドストーンはジェノバの国際連合人権理事会で発表するつもりであったが、ニューヨークの国連総会において大々的に発表するよう操作したと言いました。シャレヴ氏はゴールドストーン報告書に協力することを拒否したイスラエルを擁護しました。それは、調査が始まる前であるのに理事会の憲章はイスラエルの戦争犯罪を断罪したためです。

メディアが負傷したパレスチナ人の子どもたちの写真をたくさん掲載しましたが、シャレヴ氏は同じような手法を取らないようにしました。そのやり方は皮肉的であり、操作的であると彼女が考えたからでした。

ガザ船団の事例においても、この比較的小さく孤立した出来事を主なメディアが注目するようにした偽善を示しました。シャレヴ氏は言いました。「何百人という人々がイラク、アフガニスタン、そしてチェチュニアで殺されています。一体どの程度の出来事がイスラエルをバッシングする土台となる出来事なのでしょうか。」

ガヴリエラ・シャレヴ氏は、メディアは自動的にイスラエルを非難すると言いました。「間違いにも関わらず、私たちは普通の国です。これは皮肉に聞こえるかもしれませんが、過去 2 年間国連にいて主に分かったことは、世界中で描かれているイメージよりも、イスラエルは遥かに良い国であるということです。」